



輸出品目別レポート（その他の野菜『キャベツ、乾しいたけ』）

〔キャベツ〕

■品目説明

秋に播種し、春から初夏にかけて収穫するものは「春キャベツ」と呼ばれる。「春キャベツ」は、柔らかく、甘みがあるのが特徴である。一方、夏に播種し、冬に収穫するものを「冬キャベツ」と呼ぶ。「冬キャベツ」は、葉がしっかりしており、加熱しても煮崩れしにくい
ため、ロールキャベツなどの加熱調理に適している（[東北農政局「キャベツ」](#)）。

[農林水産省による作物統計](#)（2025 年 4 月 30 日発表）によれば、2024 年の春キャベツ収
穫量は前年比 4%減の 33 万 8,900 トンとなり、作付面積は 8,590ha で、前年産に比べ 180ha
（2%）減少した。夏秋キャベツ収穫量は前年比 3%減の 46 万 6,400 トンとなり、作付面積
は 9,670ha で、前年産に比べ 530ha(5%)減少となった。

そのほか、関連業界団体として、[日本野菜協会](#)、[全国中央市場青果卸売協会](#)などがある。

■貿易概況

2023 年の日本のキャベツ（芽キャベツを除く）の輸出動向をみると、金額ベースでは前
年比 24.1%減の 220 万ドル、数量ベースでは同 21.6%減の 1,611 トンであった。主要輸出
国・地域の動向をみると、1 位（金額ベース）は香港で、金額が前年比 34.3%減の 143 万ド
ル、数量が同 29.0%減の 1,151 トン、2 位はシンガポールで、金額が同 5.7%増の 70 万ド
ル、数量は同 4.0%増の 393 トンであった。3 位は台湾で、金額が同 45.6%減の 2 万ドル、
数量は同 34.6%減の 34 トンだった。上位 2 カ国でシェア（金額ベース）は 97.1%を占め
る。

▼表 1：日本のキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	1,921,339	1,267	2,189,267	1,621	1,438,821	1,151	△ 34.3	△ 29.0
シンガポール	868,560	431	664,577	378	702,579	393	5.7	4.0
台湾	180,577	233	38,639	52	21,003	34	△ 45.6	△ 34.6
マレーシア	7,014	2	—	—	16,564	13	—	—
カナダ	—	—	—	—	12,076	17	—	—
全世界	2,988,895	1,938	2,903,784	2,056	2,203,790	1,611	△ 24.1	△ 21.6

注：対象はHSコード 0704.90

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

■海外事情

●香港

2023 年のキャベツ輸入額は前年比 101.7%増の 869 万ドル、数量ベースでは同 41.5%増



の 8,552 トンと、2022 年の大幅減の反動から増加した。主要輸入相手国別にみると、1 位の中国が前年比 322.5%増の 702 万ドル、数量ベースで 68.0%増の 7,634 トン、2 位の日本が 156 万ドル（前年比 23.6%減）、数量ベースでは 823 トン（同 17.4%減）であった。香港では、輸入した生鮮野菜をサラダとして食べる習慣はあるものの、キャベツを生で食べる習慣はほとんどない。日系フランチャイズのとんかつ料理店など一部を除き、炒めるか煮るかして食べるのが一般的である。このため業務用を中心に中国産が主に使用されているとみられる。日本産は大玉で安心・安全であると捉えられている。

▼表2：香港のキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸入

（単位：ドル、トン、％）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	123,829,701	322,049	1,663,691	4,545	7,028,662	7,634	322.5	68.0
日本	1,814,530	924	2,050,550	996	1,567,155	823	△ 23.6	△ 17.4
韓国	124,757	118	107,059	71	60,932	53	△ 43.1	△ 25.4
台湾	377,976	269	412,692	402	29,493	39	△ 92.9	△ 90.3
オランダ	3,774	1	2,268	1	5,375	1	137.0	0.0
全世界	126,155,784	323,367	4,309,710	6,042	8,693,470	8,552	101.7	41.5

注：対象はHSコード 0704.90-10 Commodity: 07049010, Round Cabbage, Fresh Or Chilled

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

●シンガポール

2023 年の輸入額は前年比 8.7%減の 3,842 万ドル、同数量は 4.7%増の 63,665 トンであった。国別輸入をみると、1 位は中国で前年比 19.8%減の 1,969 万ドル、同数量は 0.5%増の 37,320 トンであった。日本は 5 位で前年比 0.2%減の 100 万ドル、同数量は 472 トンであった。

▼表3：シンガポールのキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸入

（単位：ドル、トン、％）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	27,572,563	37,794	24,540,164	37,131	19,692,932	37,320	△ 19.8	0.5
マレーシア	9,015,661	13,758	9,984,377	14,124	12,186,616	18,673	22.1	32.2
インドネシア	2,765,038	7,155	3,083,202	7,613	2,231,213	5,413	△ 27.6	△ 28.9
タイ	2,135,952	863	1,826,712	737	1,589,518	673	△ 13.0	△ 8.7
日本	1,037,960	509	1,005,139	489	1,003,414	472	△ 0.2	△ 3.5
全世界	45,087,395	63,041	42,092,618	60,808	38,426,040	63,665	△ 8.7	4.7

注：対象はHSコード 0704.90

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

●台湾

台湾のキャベツ輸入は、主に 5 月から徐々に増えはじめる。台湾では夏季野菜の栽培が主であり、また夏季は台風や豪雨が収穫量に影響するため、輸入野菜を市場に流通させることで需給調整を行っていると考えられる。詳細は、台湾 PF カントリーレポート「[台湾への農林水産物・食品の輸出に関する品目別レポート（野菜類）](#)」（2025 年 3 月）参照。



● そのほか

- ・香港 PF カントリーレポート「[香港への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（青果物）](#)」（2024 年 11 月）
- ・香港 PF カントリーレポート「[香港におけるギフト食品市場～月餅・菓子・花き・青果物～](#)」（2022 年 11 月）
- ・シンガポール PF カントリーレポート「[全体レポート](#)」（2025 年 3 月）

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、青果物の主要都市における市場価格をまとめている。青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドをまとめている。

〔乾しいたけ〕

■ 品目説明

乾しいたけは、森林内等においてコナラ・クヌギ等を用いた原木栽培により主に露地栽培で生産され、気温、降雨等の気象条件によって生産量が大きく左右される。

[林野庁『特用林産物生産統計調査』](#)（農林水産省）によれば、2023 年における乾しいたけ生産量は 1,816 トンで前年比 10.8%減となった。うち原木栽培は 1,550 トンであり、残り 266 トンが菌床栽培である。2023 年生産量における主な生産地は、大分県（653.8 トン）、宮崎県（310.1 トン）、熊本県（186.4 トン）、愛媛県（100.1 トン）などとなっている。

そのほか、関連業界団体として、[日本特用林産振興会](#)、[日本きのこセンター](#)、[菌興椎茸共同組合](#)などがある。

■ 貿易概況

2023 年の日本の乾しいたけ輸出動向をみると、金額ベースでは前年比 12.3%減の 128 万ドル、数量ベースでは同 0.5%減の 35 トンとなった。主な輸出相手国・地域は、首位が香港で前年比 9.7%減の 55 万ドル、数量ベースでは 1.9%増の 10 トン、2 位は米国で前年比 14.4%減の 42 万ドル、3 位は台湾で同 0.8%増の 18 万ドルとなった。この上位 3 カ国・地域による 2023 年シェア（金額ベース）は、9 割を占めている。

[日本特用林産振興会](#)「[国産特用林産物の輸出促進に向けた情報収集・連携強化報告書](#)」（2024 年 3 月）によると、以下のようにまとめている。

・近年ではサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦などの中東諸国、欧州諸国等への輸出も額は多くないものの拡大してきており、輸出先国の多角化がみられる。これは、これまでの中華料理や和食での利用だけでなく、ヴィーガンやハラル等の食生活の多様化による新規需要の拡大によるものではないかと考えられる。



- ・香港と台湾では、高級品については日本産原木乾しいたけへの強いニーズが存在しているが、輸出事業者は需要に見合う量を集めることができていない状況。一方、中級品以下の規格については価格の安い中国産と競合。
- ・個々の生産者や事業者が各々手探り輸出に取り組んでいる状況。

▼表4：日本の乾しいたけ輸出

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	884,460	14,400	611,387	10,564	552,099	10,769	△ 9.7	1.9
米国	916,811	17,959	495,532	18,849	423,934	19,886	△ 14.4	5.5
台湾	295,553	4,527	185,864	3,303	187,274	2,729	0.8	△ 17.4
シンガポール	36,435	521	44,579	701	34,029	532	△ 23.7	△ 24.1
オランダ	60,208	965	42,016	750	17,165	330	△ 59.1	△ 56.0
全世界	2,329,104	40,569	1,463,153	36,072	1,283,573	35,901	△ 12.3	△ 0.5

注：対象はHSコード 0712.39.100 0712.34.000
出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

■海外事情

●香港

2023 年の香港の乾しいたけ輸入額は、前年比 30.3%増の 7,964 万ドル、数量ベースでは同 10.9%減の 1 万 91 トンとなった。主要輸入相手国の 1 位は、中国で前年比 32.7%増の 7,533 万ドルでシェアは 90.8%だった。2 位は日本で前年比 33.6%増の 89 万ドル、3 位はオランダで同 20.6%減の 53 万ドルであった。

主に中国産の乾燥きのこ類は、業務用として販売されている。中国産乾しいたけに比べ日本産乾しいたけは高額であるが、味、香りともに秀でており、贈答用としての日本産乾しいたけの人気は高い。中秋節・旧正月の贈答用を選ぶ際に、贈答相手への面子を重んじて日本産を購入する香港の消費者による一定の需要は見込まれるだろう。

▼表5：香港の乾しいたけ輸入

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	109,552,463	23,442,377	56,786,063	11,646,701	75,336,955	10,420,712	32.7	△ 10.5
日本	844,283	13,848	673,570	12,099	899,708	18,031	33.6	49.0
オランダ	686,681	360,653	669,178	325,544	531,246	224,323	△ 20.6	△ 31.1
韓国	376,692	8,932	443,705	11,616	342,809	9,190	△ 22.7	△ 20.9
ロシア	—	—	—	—	327,293	80,438	—	—
全世界	116,352,462	24,378,594	61,121,964	12,251,646	79,646,348	10,915,345	30.3	△ 10.9

注：対象はHSコード 0712.39 0712.34
出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

●米国

2023 年の米国の乾しいたけ輸入額は、前年比 6.8%減の 2,366 万ドル、数量ベースでは同



21.9%増の 3,536 トンとなった。主要相手国別にみると、1 位は中国で前年比 8.7%減の 1,225 万ドル、2 位はフランスで同 19.0%減の 507 万ドル、3 位がポーランドで同 78.0%増の 94 万ドル、日本は 9 位で同 34.6%減の 36 万ドルとなった。

▼表 6：米国の乾しいたけ輸入

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	12,861,877	2,099,686	13,424,858	2,423,557	12,257,402	3,057,850	△ 8.7	26.2
フランス	4,144,157	143,763	6,258,788	213,191	5,072,220	162,776	△ 19.0	△ 23.6
ポーランド	398,655	7,892	530,023	23,353	943,533	37,176	78.0	59.2
イタリア	867,076	23,278	1,122,612	30,700	913,437	22,323	△ 18.6	△ 27.3
Serbia	823,454	24,692	535,332	15,479	555,255	17,322	3.7	11.9
日本 (9位)	880,462	20,207	556,413	28,455	363,744	17,813	△ 34.6	△ 37.4
全世界	23,581,510	2,538,705	25,404,428	2,901,912	23,668,307	3,536,262	△ 6.8	21.9

注：対象はHSコード 0712.39 0712.34
出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●その他

- ・台湾 PF カントリーレポート「[台湾への農林水産物・食品の輸出に関する品目別レポート \(野菜類\)](#)」(2025 年 3 月)
- ・香港 PF カントリーレポート「[香港への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート \(青果物\)](#)」(2024 年 11 月)
- ・マドリードで国際料理学会開催、食の発信地で日本食を訴求(日本、スペイン)| [ビジネス短信 ージェトロの海外ニュース - ジェトロ](#) (2025 年 2 月)
- ・日本産食品試食会を開催、抹茶、干し椎茸、米菓、コメ、日本酒に関心(日本、ブラジル)| [ビジネス短信 ージェトロの海外ニュース - ジェトロ](#) (2024 年 8 月)
- ・[日本特用林産振興会の調査事業報告書](#)では、乾しいたけなどきのこ類などの台湾やベトナム、欧州などの市場調査レポートが公開されている。例えば、「[国産特用林産物の輸出促進に向けた情報収集・連携強化報告書](#)」(2025 年 3 月)。

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、青果物の主要都市における市場価格をまとめている。青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドをまとめている。



本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。